第39回　4・9反核燃の日全国集会

集会の趣旨

1985年４月９日に当時の北村県知事は、「むつ小川原巨大開発」の失敗を覆い隠すため、核燃サイクル３点セット（ウラン濃縮工場、核燃料再処理工場、低レベル放射性廃棄物埋設の３つの施設）の立地（受け入れ）を決めた。以来私たちは同施設に反対する姿勢を示し、全国の仲間とともに同計画の断念を訴えてきた。

受け入れ表明から今年で39年目を迎えるが、低レベル放射性廃棄物埋設施設を除いた事業は遅れ、ウラン濃縮工場は昨年８月に一部再運転したが、その必要性は疑問視されている。1993年に着工した再処理工場に至っては、26回も操業延期を繰り返し、完成の見込みは未だたっていない。

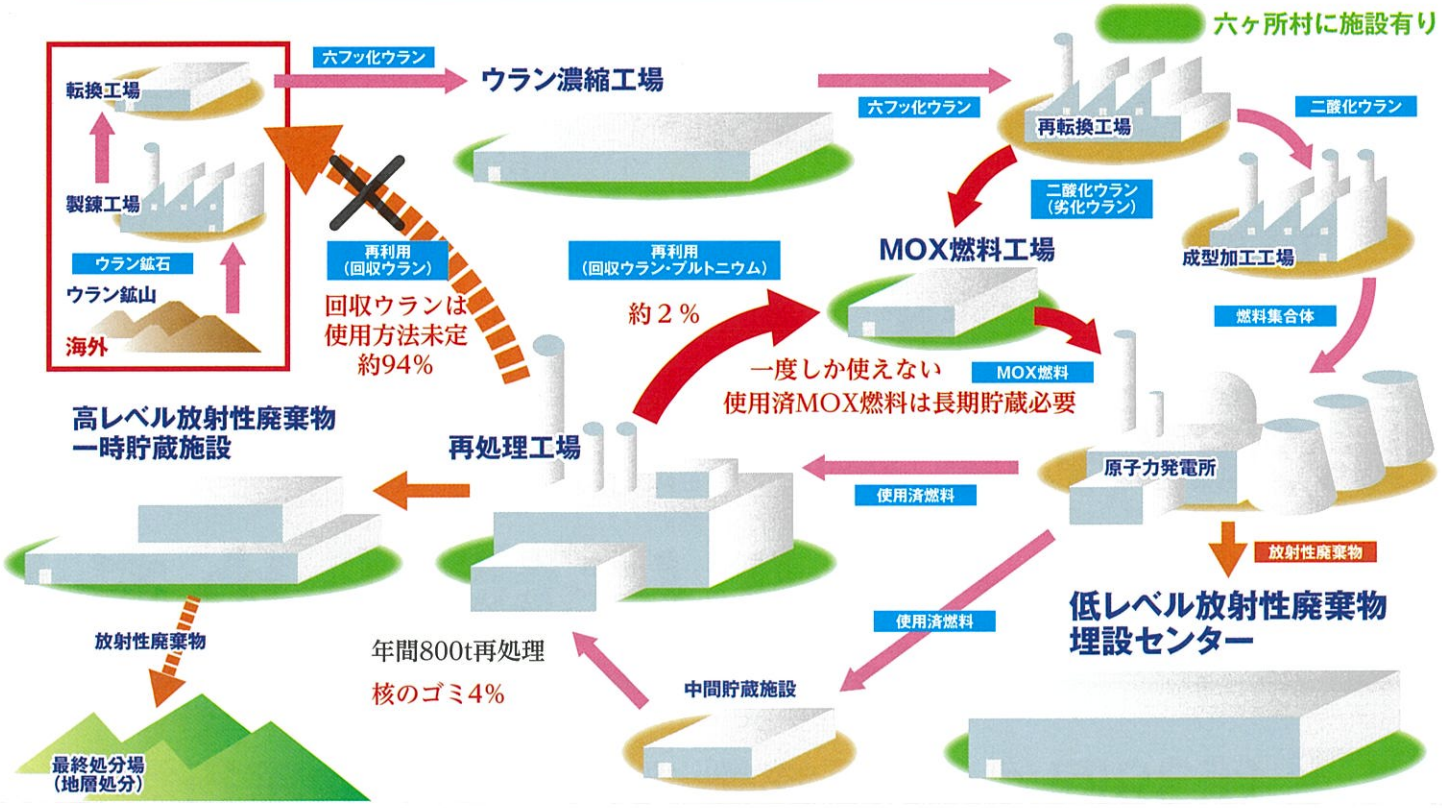
高レベル放射性廃棄物一時貯蔵施設については、最初の受け入れから29年目を迎えているが、約束されていた30 ～ 50年内の搬出については困難な状況にある。

１月１日の能登半島地震では、停止中の北陸電力志賀原発も被災し、あらためて、原発の審査基準に問題があることが露呈された。

再処理工場については、福島原発から放出される汚染水の実に440倍も高い放射能管理目標値が設定され、海洋放出が許されている。青森の地においても全国の仲間のたたかいに連帯し、私たちのいのちを脅かしかねない六ヶ所村の再処理工場、むつ市でのリサイクル貯蔵施設、大間町でのフルMOＸ原発、東通原発を止める取り組みを強化していかなければならない。

世界は福島原発事故を教訓に、脱原発に舵を切ったが、岸田政権が原発の運転期間延長を望むのは情勢を見誤っている。未来の子どもたちが安心して生きるため、反核燃・脱原発社会を確立していく決意を、第39回「４・９反核燃の日全国集会」で固めあおう。

六ヶ所村の核燃サイクル施設は資源とお金の無駄遣い！！



核燃サイクルの輪は途切れている!!

カンパのお願い

◆ 東北労働金庫　青森支店　（普通）3991738
青森県反核実行委員会　実行委員長　今村 修

◆ 郵便振替　02210-8-126675
反核燃の日全国集会実行委員会